

みずほフィナンシャルグループの社会貢献活動への取り組みについて

当グループは、社会とともに歩む「良き企業市民」として、義金の拠出等、国内外において数多くの社会貢献活動に取り組んでいます。また、「ボランティア活動に参加したい」という社員の要望に応え、「ボランティア休暇制度」を設ける等、社員の社会貢献活動を支援しています。



日本赤十字社への寄付

●米国同時多発テロ事件の救援活動に100万ドルを寄付

平成13年9月11日に発生した米国同時多発テロ事件の救援活動を支援するために、当グループは、100万ドルを日本赤十字社に寄付しました。

今回のテロ事件では、当グループでもニューヨーク世界貿易センタービルで、派遣行員12名を含む19名が事件に巻き込まれました。



「黄色いワッペン」をつけた一年生

●「黄色いワッペン」贈呈事業

当グループは、交通事故傷害保険つきの「黄色いワッペン」を、全国の小学校に入学する一年生に贈呈する事業を、安田火災海上保険等と実施しています。これは、昭和40年から行っている交通安全事業で、38回目を迎えた平成14年までの累計贈呈枚数は4,706万枚に達しています。



施設での作業

●国内における地域貢献活動

心身障害者・授産施設の経済的自立支援

みずほ銀行帯広支店では、心身障害者・授産施設の経済的自立を支援することを目的に、施設とお取引先と連携して取り組んでいます。十勝産小豆の加工段階で発生する紙袋をジャガイモ出荷用に再利用する「紙袋リサイクル事業」を、「アットホームめむろ」と「のぞみ園」でスタートさせる等、地域特性を活かした仕組み作りに成功しています。

中学校で特別講義

みずほ銀行長野中央支店の渉外課長(日本証券アナリスト協会検定会員)が、地元の長野市櫻ヶ岡中学校で金融についての講義を行いました。同校の依頼に応え、3年生の社会科選択科目である「証券投資」の特別講義として行ったものです。



中学校での講義

●海外における地域貢献活動

米国における活動

米国では、グループ各拠点のスタッフや家族がさまざまなボランティア活動に参加している一方、企業としても組織的に地域発展に貢献しています。例えばIBJ財団は、「世界的視野を有する人材の育成」、「都市部コミュニティの活性化」、「コミュニティへの参加」をテーマとして、平成元年の設立以来総額約550万ドルの寄付を、地元の教育機関や地域開発団体等に対して行ってきました。平成14年1月には、同財団の設立母体であるIBJトラストカンパニーとともに、富士銀行信託会社がNYの非営利団体NHS(Neighborhood Housing Services)から長年にわたる地域貢献に対して表彰を受けました。また、米国DKB基金も同様に、平成5年の設立以来総額約100万ドルの寄付活動を行っています。

アジアにおける活動

アジアにおいても、当グループの各拠点(タイ・インドネシア・中国・台湾等)が、国内外のスタッフからの寄付金等をもとに、恵まれない子供たちへの支援活動等さまざまな地域貢献を行っています。

また、「みずほアジア人材育成基金」、「瑞穂愛心基金会」を通じ、東南アジア地域での奨学事業や台湾での慈善活動に取り組んでいます。



NHSの表彰式



瑞穂愛心基金会の贈呈式

●社会貢献財団の活動

当グループは、以下の社会貢献財団の支援を通じ、社会福祉、教育・奨学育英、国際交流および学術研究助成等の事業に取り組んでいます。「 」内は、主務官庁の認可を前提に平成14年度中に変更予定の名称。〈 〉内は、平成14年6月末日現在の名称)

「みずほ教育福祉財団」〈はあと記念財団:昭和47年設立〉

当財団は、教育分野ではへき地教育や障害児教育、社会福祉分野では老人福祉を中心に各々の事業助成に取り組んでいます。全国の老人ホームを対象とした福祉用自動車の贈呈事業については、設立以来の累計が228台に達しました。

「みずほ福祉助成財団」〈富士記念財団:昭和55年設立〉

当財団は、障害者福祉分野を中心とした社会福祉事業に取り組んでおり、社会福祉助成金の贈呈、視覚障害を持つ大学生のための点訳介助事業(累計100名)や、電動車椅子の贈呈事業(累計500台)を実施しています。また、リフトつきバスやマイクロバス等を心身障害者施設に贈呈しており、設立以来の累計は183台に達しました。

「みずほ国際交流奨学財団」〈富士銀行国際交流奨学財団:平成3年設立〉

当財団は、主たる事業として日本で学ぶ外国人留学生を対象に奨学金を支給しており、設立以来の累計は112名(うち博士号取得者は27名)となりました。また、青少年を対象に、国際交流を担う人材育成事業にも取り組んでいます。

「みずほ学術振興財団」〈河上記念財団:昭和32年設立〉

当財団は、「青年層における学術研究を奨励すること」を目的に、若手研究者に対する工学研究助成金の交付(大学推薦)、法律・経済分野の懸賞論文の募集(公募)、外国人留学生に対する奨学金の支給(大学推薦)等の事業を行っています。

「みずほ育英会」〈興英会:昭和29年設立〉

当財団は、経済的理由により修学困難な優秀な学生(大学推薦等)に奨学金を支給することによって、人材育成を行うことを目的としています。設立以来の累計奨学生数は672名に上っています。



福祉用自動車贈呈式



奨学生発表式



奨学生同窓会



助成金贈呈式



奨学生懇談会

●芸術文化への支援活動

成人の日コンサート

平成14年1月14日の成人の日に、東京・赤坂のサントリーホールにおいて、「成人の日コンサート」を開催しました。今回は、二村英仁さん(バイオリニスト)、酒井はなさん(バレリーナ)、大野和土さん(指揮者)、ワガノワ・バレエ・アカデミー等の出演による多彩なプログラムを楽しんでいただきました。このコンサートは、「若手アーティストの支援」と「次世代を担う青少年層へのクラシック音楽の普及」を目的として平成2年から実施しているものです。

MIZUHO STREET GALLERY

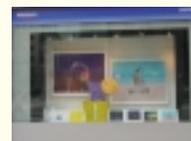
みずほ銀行の銀座中央支店と数寄屋橋支店では、ウィンドウディスプレイ空間に作品を展示する「MIZUHO STREET GALLERY」を実施しています。「若手アーティストの発掘・支援」を目的として行っているもので、銀座の目抜き通りを飾るにふさわしい、独創性あふれる作品の発表やメッセージ発信の場として提供しています。



二村英仁さん



酒井はなさん



銀座中央支店



数寄屋橋支店

みずほフィナンシャルグループの環境への取り組みについて

●当グループの基本方針

- ・経済発展と環境保全の両立を図っていく社会的責任があると認識し、自主的・積極的に環境問題に取り組みます。
- ・環境関連法令を遵守し、ごみの分別回収や再生素材の使用等の省資源・省エネルギーに取り組めます。
- ・環境保護団体やお客さまの環境問題への取り組みを支援するとともに、環境保全に貢献する金融商品やサービスを提供します。

●環境関連の金融商品・アドバイザリーサービス

当グループでは、お取引先の環境への取り組みを支援するため、以下のようなサービスを提供しています。

- ・京都議定書の発効や土壌汚染対策法の成立等に関連して、お取引先が直面するリスク、およびその管理手法についての調査・アドバイス。
- ・温室効果ガス排出権取引、およびCDM (Clean Development Mechanism)に関するアドバイス・金融商品の提供。
- ・温室効果ガス排出権獲得を目的としたプロジェクト向け投資の経済性評価、リスク対応に関するアドバイス、および資金調達のアレンジ。
- ・天候デリバティブの販売、および活用アドバイス。
- ・LCA(Life Cycle Assessment)実施支援、ISO14001取得に関するコンサルティング。

●金融業務における環境リスク評価

M&A業務において、買収先企業の環境リスクを評価に折り込む事例や、プロジェクトファイナンスにおいて、その資金用途がおよぼす環境影響を評価して与信判断に反映させる事例等、企業や事業の持つ環境リスクを金融業務に反映する事例が増加しています。

こうしたなか、当グループでは、環境リスクを織り込んだ与信管理手法について、検討を進めています。

●環境関連の社会貢献事業

当グループは、小中学生に対する環境教育を目的として、全国小中学校環境教育研究会が主催する「全国小中学校児童・生徒環境絵画コンクール」に協賛しています。

CDM

先進国が、途上国で実施した排出削減プロジェクトから得られた排出削減分の排出クレジットを、自国の排出権として移転できる制度。

LCA

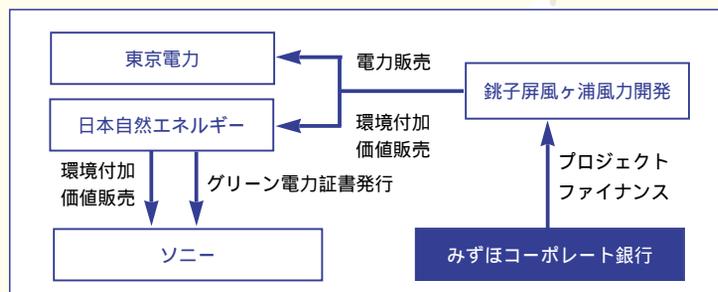
原材料の調達・製造から使用・廃棄にいたる製品のライフサイクル全体を通して、製品が環境に与える負荷の大きさを定量的に評価する手法。



作品の展示

●国内初の「グリーン電力証書システム」を活用した風力発電事業向けプロジェクトファイナンス

みずほコーポレート銀行は、千葉県銚子屏風ヶ浦で稼働中の、国内初となるグリーン電力証書システムを用いた風力発電事業に対して、返済原資を事業からの収益に限定したプロジェクトファイナンスの融資契約を締結しています。



Topics